

## 水防災に関する情報



ホームページ

自分で情報を見に行く

### ■川の防災情報

近年頻発している大雨や集中豪雨による水害、土砂災害時の避難勧告、あるいは迅速・的確な避難等に役立てていただくために、「雨量」「河川の水位」「洪水予警報」等の情報をリアルタイムに提供しています。

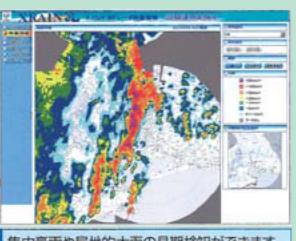
<http://www.river.go.jp/>



### ■XRAIN(XバンドMPレーダー)

ゲリラ豪雨や局所的集中豪雨対策として、従来の広域レーダーに加えて、より早く、より詳細に降雨状況が観測できる、XバンドMPレーダー雨量計の観測情報を配信しています。

<http://www.river.go.jp/xbandradar/>



### メール

空メールを送信して登録すれば、情報が送信される。

### ■きずなネット防災情報

名古屋市内の「避難勧告」「避難準備情報」等、および消防・防災お役立ち情報をメールで届けます。

### ■みずから守る防災情報メールサービス(愛知県)

愛知県内の大雨、洪水、土砂災害などの防災情報を携帯電話、スマートフォンにメールで知らせます。

### ■ぎふ川と道のアラームメール(岐阜県)

岐阜県内の大雨、洪水の情報をメールで知らせます。

### ■庄内川河川情報

庄内川の「雨量」「河川の水位」「CCTVカメラ映像」等の情報をリアルタイムで提供しています。

<http://www.cbr.mlit.go.jp/shonai/kasen/web/index.html>

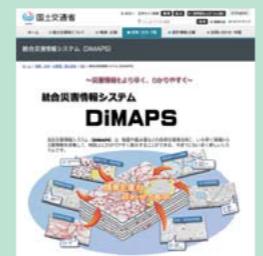


### ■統合災害情報システム DiMAPS

(Integrated Disaster Information Mapping System)

DiMAPSは、地震や風水害などの自然災害発生時に、いち早く現場から災害情報を集約して地図上にわかりやすく表示することができる、全く新しいシステムです。このシステムを運用することで、災害現場からの情報収集や防災関係機関との情報共有、地域住民への情報提供等が可能になるなど、様々な場面で活躍しています。

<http://www.mlit.go.jp/saigai/dimaps/index.html>



# 庄内川 水防災 フォーラム

東海豪雨から15年  
～近年の全国における水害も踏まえた  
今後の防災のあり方について～



## 開催報告

平成28年3月

国土交通省中部地方整備局庄内川河川事務所

# 庄内川水防災フォーラム

## 東海豪雨から15年～近年の全国における水害も踏まえた今後の防災のあり方について～

日時：平成27年12月22日（火）14:00～17:00 主催：国土交通省中部地方整備局、国土交通省中部地方整備局 庄内川河川事務所

平成27年12月22日（火）、名古屋市千種区にある今池ガスホールにおいて、「庄内川水防災フォーラム」を開催しました。

東海豪雨から15年目を迎えた今年、改めて当時の浸水被害や避難・復旧活動の状況、その後の防災への取り組みを振り返り、9月の鬼怒川など近年の全国における水害も踏まえた上で、避難行動を中心とした今後の防災のあり方について議論しました。

この地域の行政や企業の防災担当者、学生、一般の方々など約290名が参加しました。



### ■主催者挨拶

国土交通省 中部地方整備局 河川部長 勢田 昌功



今年は東海豪雨から15年目を迎えます。東海豪雨では約39,000戸の家が浸水、多数の方が避難出来なかつたなど、防災体制について多くの課題を残しました。これを教訓として、清須市、名古屋市において様々な防災体制強化の取り組みが行われて来ている一方、近年の雨の状況は局地化、集中化、また激甚化しており、特に、今年の9月には鬼怒川で堤防が発生、多くの方が被災しています。

国土交通省では、10月に避難を促す緊急行動を発表し、自治体、流域の住民の方々とともに、避難行動について考える取り組みを進めています。本日のフォーラムでは、東海豪雨の状況を振り返り、当時や鬼怒川をはじめとした課題を通して、改めて庄内川流域における防災のあり方について皆様と一緒に考えていきたいと思います。

### ■基調講演①「東海豪雨時の状況とその後の取り組み」

清須市長 加藤 静治



東海豪雨時、私は新川町の役員でした。9月11日午後4時、大雨警報が発表され、新川、庄内川の水位が上がり続けたため、急遽、当時の3町長が集まり協議し、避難勧告を出しました。12日午前3時20分頃、新川水位が急に低下して、左岸堤防の決壊が判明しました。時間雨量にして70ミリ以上、川が持ちこたえる雨量の1.5倍の降雨により、為す術もなかった状態でした。被災後は、全国のボランティアの方々が復興の手助けをしてくださいました。その反省から、清須市では、社会福祉協議会でコーディネーターを養成しています。また、水害対応ガイドブックを作り、市民へ呼びかけるとともに、自主防災会を組織し、資機材も揃えました。治水対策は年々充実していますが、まだまだ対応ができないことがあります。受け入れ側のコーディネーターが十分でなかったことは課題となりました。その反省から、清須市では、社会福祉協議会でコーディネーターを養成しています。また、水害対応ガイドブックを作り、市民へ呼びかけるとともに、自主防災会を組織し、資機材も揃えました。治水対策は年々充実していますが、まだ対応ができないことがあります。地域の防災力を向上させて災害対策に努めてまいります。

### ■基調講演②「鬼怒川の水害について」

国土交通省 関東地方整備局 河川部河川調査官 高橋 伸輔



2015年9月、現職就任もなく、関東・東北豪雨で鬼怒川水害を経験しました。被害の大きかった茨城県常総市は中央を鬼怒川、東に小貝川が流れています。9月9日から10日にかけて鬼怒川の上流部を中心に、24時間に550ミリという非常に大きな雨量を観測しました。上流の降雨が下流に流れ込み、10日の12時50分に左岸堤防が決壊しました。上流の大雪で水害が起きた点は東海豪雨と大きく異なるところです。結果、市内3分の1が浸水、2人が死亡、4300人が救助されるという大きな被害となりました。決壊の主な原因は、堤防の上を越水したことではないかと考えられています。事前シミュレーションやハザードマップと、実際の浸水域は概ね一致していました。しかし、住民や行政の中でリスク共有が十分だったかは課題として残りました。他にも、危険地区からの避難誘導、水防体制の強化、土地利用の見直しなど課題がありますが、決壊しにくい堤防づくりを行っていきたいと考えております。

### ■基調講演③「庄内川の河川整備の現状と避難を促すための取り組み」

国土交通省 中部地方整備局 庄内川河川事務所長 石川 博基



東海豪雨後、2004年までの5年間、激甚災害対策特別緊急事業で治水事業を行い、新川・庄内川の治水安全度は大幅に向上しました。しかし、今年9月の鬼怒川のような大雨が降った場合、計画高水位を大きく越え、堤防の決壊の可能性が非常に高まります。仮に、西区周辺で庄内川左岸堤防が決壊をした場合、約2時間半後には名古屋駅に浸水が到達、地下街に水が入り込むと想定されます。約6時間後には名古屋駅一帯は浸水、その深さは2メートルに及び、非常に危険な状況になると推測されます。そのため、避難行動を促す取り組みが重要となります。今年3月には、庄内川決壊対応タイムライン検討案を策定、また、国交省では10月に、避難を促す緊急行動を発表しました。首長を対象としたトップセミナーの開催、ハザードマップのポータルサイトを開設、その周知と活用促進等を実施しています。今後も勉強会などを通じて自治体との連携をさらに強化し、的確な避難が実施できるように対応していきたいと考えています。

### パネル展示

ロビーでは、東海豪雨の災害状況をまとめたパネル、清須市水害対応ガイドブックを展示しました。



### ■パネルディスカッション

#### ■コーディネーター

大同大学工学部准教授 鷲見 哲也

名古屋工業大学大学院教授 秀島 栄三

清須市長 加藤 静治

毎日新聞社 中部報道センター記者 清藤 天

気象予報士 植木奈緒子

国土交通省 中部地方整備局 庄内川河川事務所長 石川 博基

国土交通省 関東地方整備局 河川部河川調査官 高橋 伸輔



#### ■アドバイザー



#### ●東海豪雨について

【石川氏】 東海豪雨は、過去に経験をしたことのない豪雨により、庄内川支流の新川の決壊や各地での内水により広範囲で洪水が発生。ライフラインへの影響、地下空間への浸水など都市型水害としての特徴が顕著な灾害であったといえる。

【植木氏】 地球温暖化により海水温が上昇し、台風は強大化し集中豪雨も増えると推測される。細い線状になった雨雲、いわゆる線状降水帯がかかつた時、災害につながる可能性があり、気象条件さえ揃えば、この地域でも鬼怒川のような集中豪雨が発生する可能性がある。

#### ●東海豪雨時の課題と教訓

【石川氏】 本フォーラムの前に庄内川河川事務所主催で3回の座談会を開催。主な意見は次の通り。〔マスコミ〕地域住民は災害のリスクを認知していないかった。〔行政〕避難勧告の意味が理解されず住民からの問い合わせが殺到した。防疫やごみ問題など、未経験、想定外の問題が発生したなど。〔住民〕災害時要配慮者の避難について課題があった。〔消防団〕指揮命令系統が寸断したため、水防活動は現場の判断で対応したなど。※詳細は「座談会等活動報告」参照

【清藤氏】 被災者の取材を通して分かったことは、水害は、自宅でも避難所でも衛生面が悪化するということ。どのような支援物資が必要か判らず、支援する面での課題があった。また、長期にわたる支援も必要。状況に応じた支援というのが大切である。

#### ●東海豪雨後の対策と近年の水害で浮き彫りになった課題

【加藤氏】 東海豪雨後の取り組みとして、清須市では水害対応ガイドブックを作成、壁に掛けられるデザインとし、全戸配布した。特徴としては、3種類のマップ（「気づき」「浸水深」「逃げどき」）により、浸水深と住宅の構造や所在階数を組み合わせることで、それぞれの「逃げどき」が分かるものとした。

【植木氏】 避難勧告、避難指示や水位情報で、すぐ行動に移せるかは疑問。「逃げどきマップ」は具体的でよいと思う。私自身もそうだが、小さい子を抱えて雨の中避難するのは大変である。いつ避難をするかの判断が難しい。

【石川氏】 ソフト面での取り組みとして、洪水予報や浸水想定区域図ハザードマップの作成等の実施により避難に関する情報や防災体制の強化はされてきてる。課題としては、どのように実際の避難行動につなげていくかという点である。

#### ●適切な避難行動に向けた課題

【高橋氏】 鬼怒川水害時もそうだが、被災した域内だけで避難を完結させるのは困難。広域避難の必要がある。また、河川管理者、行政、さらにはメディアを通じて、どのように住民に危険性を認識してもらうかも課題である。命を守るためにには、昼夜など時間帯によって避難行動が異なることを自ら判断することが必要。

【清藤氏】 自分は大丈夫、と逃げない行動を正当化してしまう「正常性バイアス」が大変危険。自分たちのリスクについて事前に把握しておくことが重要である。

【秀島氏】 水害はある程度予想でき、予め段取りすることが可能である。ただし、状況によって刻々と変化するため、情報をいかに入手するかが大切となるが、情報を受け取る側の理解に対する問題もあり、まだまだ課題が多い。愛知県では「みずから（自ら、水から）守るプロジェクト」を通して一般の人に理解してもらう取り組みを進めている。防災に关心の低い人にいかに关心を持ってもらうか、やるべきことは多い。

#### ●今後の取り組みについて

【石川氏】 河川管理者は避難に必要な情報を多く持っているが、情報氾濫にならないよう、いかに分かりやすく、適切に提供するかが重要になる。そのためには、自治体の方としっかり連携していく必要がある。

【清藤氏】 名古屋地方気象台が災害時の判断をシミュレートする「クロスロード」という災害カードゲームを作成した。防災気象情報を学ぶのに役立つもの。やはり大切なのは自助、「安全に、近くの高い所」への避難行動が重要。広域避難という観点から自治体間の連携も必要である。

【植木氏】 事前の避難場所の点検や、「自分で守る」という意識が重要だと感じた。自分の住む地域ではどんな災害が起こり得るか、想像力を働かせること、また、家族間で情報共有しておくことが大切である。

【秀島氏】 想像力は大切である。さらに加えて、さまざまな被害想定を考えておくことも重要。災害は、1種類のシナリオとは限らず、どう展開するかは誰も知らない。私の研究室では、現在、8種類のパターンを用意している。タイムラインも同様に様々なシナリオを吟味することが必要であろう。

#### ●コーディネーター鷲見氏のまとめ

本日のフォーラムを通じて、今後の防災対策のために、次の点が重要であると感じている。

- ・都市部での地域コミュニケーションのとり方。
  - ・防災意識の維持、継承をして、どのように新住民、新しい世代に伝えていくか。
  - ・避難の判断基準、行動指針について、行政と住民の相互の「了解」があること。
- これらの課題を解決するためには、住民、避難情報を提供する自治体、専門家である河川管理者、情報を扱うメディア、この4者間の協力と連携が不可欠である。